

第7章 観光ボランティアガイドの現状

—千葉県香取市の視察から—

1. はじめに

千葉県香取市に於いて2012年9月7日、8日の2日間にわたり、2012年度愛知大学経営総合科学研究所「観光とまちづくり」プロジェクト視察に参加する機会を得た。そこでは、香取市役所経済環境部商工観光課賑わい推進班ご担当者の方々との意見交換や香取市の中でも佐原を中心とした小野川沿岸とその周辺の古い商家や町屋が建ち並ぶ「北総の小江戸」と称される街並みの視察を行った。

今回訪問した香取市は、2006年3月27日に佐原市、小見川町、山田町、栗源町の1市3町が合併して誕生し、東京から70km圏、成田国際空港から25km圏内にある千葉県の北東部に位置しており¹⁾、現在、30,121世帯、83,284人が生活している²⁾。

豊富な水と緑に囲まれている自然・歴史・文化に彩られた地域であるこの香取市の北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、利根川流域には水田地帯が広がる。一方、南部には山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占められている。

産業面では、温暖な気候と肥沃な農地に恵まれ、首都圏の食糧生産地の役割を担っており、古くから水郷の早場米産地として知られる「米どころ」となっている。また、全国一の食用甘藷の生産・販売額を誇る千葉県内に於いて一番の甘藷生産地であり、日本一の食用甘藷の生産地である。

現在、香取市ではこうした立地と後に紹介するような豊富な観光資源を生かし、TMO構想³⁾として10の目標を掲げるにより具体的実現計画を描き、官民一体となって「観光とまちづくり」の活動⁴⁾に努めている。そのことに加えて任意団体やNPO法人による「観光とまちづくり」活動も盛んに行われていることもこの香取市の特徴であるが、その一つとして、地元商店の20名の「おかみ」を中心として構成される「おかみさん会」がある。この「おかみさん会」は観光施設ではなく、生活に密着した形で佐原の伝統の技や文化に触れることのできる新しい形の博物館である「佐原まちぐるみ博物館」を運営する他、年間を通してお正月飾り、獅子舞、

1) 東経140度29分38秒、北緯35度53分51秒、面積262.31km²。香取市経済環境部商工観光課（2012）。

2) 平成25年1月1日現在。「香取市ウェブサイト」より。

3) 2002年3月に策定されたこのTMO（Town Management Organization）構想は、次の10の目的に沿って佐原商工会議所をはじめとする各種団体が佐原の市街地の活性化に向けた事業を実施するというものである。

目的1：佐原を有名にする

目的2：佐原のまち中へ行きやすくする

目的3：来街者・顧客へのサービスを高め、中心市街地を回りやすくする

目的4：魅力的な個店を増やす

目的5：魅力的なイベントを行い、通りに賑わいを生み出す

目的6：町並みのホンモノの魅力高める

目的7：飲食の魅力高める

目的8：定期的に必要な調査を行い、まちづくりへフィードバックする

目的9：町並みの整備など美しく住みやすい環境をつくっていく

目的10：マネジメント体制を確立する

4) 香取市の「まちづくり」及び「地域観光政策」についての研究には、例えば、白井・他（2009）がある。

ひなめぐり、五月人形めぐり、さわら町並み夕涼み催しなどで活動をしている⁵⁾。

また、香取国際交流協会では成田空港から僅か25kmの距離にある香取市の立地を生かすべく「通訳ガイドボランティア部会」を設置することにより外国人旅行者誘致のために努めており、国内からの観光客に対してはNPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」によって佐原の町並みを案内する観光ボランティアガイドを組織している。

筆者は今回の視察に於いて香取市の「観光ボランティア」について知る機会を得た。そこで本論文では、ここ近年全国的に増加しつつある「観光ボランティアガイド」に着目し、我が国に於ける観光ボランティアガイドの現状について紹介する。次節以降、まず香取市佐原の観光資源について触れ、次いで我が国の観光ボランティアガイドの現状について述べ、その中で佐原の町並みを案内するボランティアガイドを紹介する。

2. 佐原の観光資源

香取市の中でも北部に位置する佐原には、東国三社の一つである「香取神宮」を初め、水郷筑波国立公園として定められた自然景観が楽しめる利根川周辺等の観光名所があるが、中でも小野川沿いに約500m、川と交差する香取街道沿いに約400mの範囲で、江戸と結ばれた舟運で栄えた商家が軒を連ねている地域が広く知られている。この地域の中には、国指定の史跡であり、1793年に建設された伊能忠敬旧宅の他、県内でも有数の洋風建築として知られている三菱館や江戸時代より醤油の醸造を行っている老舗である正上、1902年に旧佐原市で初めて使われたガラス戸が貴重な文化財となっている小堀屋本店を初め、県の指定文化財も8件含まれている。ここは江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿が残っていることから「生きている町並み」と評されており、1996年には関東地方で初めて国選定の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

他にも2010年に重要文化財から国宝に指定された2,345点の資料を所蔵する伊能忠敬記念館や、橋下の用水樋からあふれ落ちる豊かな水の音が「残したい日本の音風景100選」として環境省に選定された樋橋（ジャージャー橋）も見どころの一つとされている。

佐原では行事が年間を通して盛んに行われており⁶⁾、特に2004年2月に「佐原囃子」と共に「佐原の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された「佐原の大祭」が有名である。この「佐原の大祭」は夏祭りである7月10日から18日までの連続した金・土・日曜日に行われる八坂神社祇園祭と、秋祭りである10月第2土曜日を中日とする金・土・日曜日に行われる諏訪神社秋祭りから為り、佐原囃子の音と共に山車が市内を曳き廻される盛大な行事である。

小野川沿いの重要伝統的建造物群保存地区を中心に佐原はテレビや映画のロケに使用されることも多く、2007年から2010年までの間、来訪者は前年比で増加していた。東日本大震災の影響により減少したものの、2011年の1年間の間に小野川沿いには33万人が訪れ、この小野川周辺から3kmほど東に位置する香取神宮には、190万人が訪れた。また、花菖蒲を目当てに水郷佐原水生植物園には23万人の来訪者を迎えた⁷⁾。

5) 詳しくは、「佐原まちぐるみ博物館ホームページ」を参照されたい。

6) 詳しくは、「佐原町並み交流館ホームページ」を参照されたい。

7) 国土交通省総合政策局（2009）の調べでは、佐原への来訪客は50歳代以上のシニア層が多く、全体の7割近くはリピーターであり、滞在時間は1～3時間程度が最も多く、交通手段はマイカーが約7割であるという。また、外国人観光客は年間1万人程度である。



写真1 小野川沿いの古い町並み案内板



写真2 小野川の様子



写真3 小野川沿いの歴史的景観



写真4 寛政12年（1800年）5月創業の正上



写真5 伊能忠敬記念館



写真6 樋橋（ジャージャー橋）の上から

3. 観光ボランティアガイドの現状

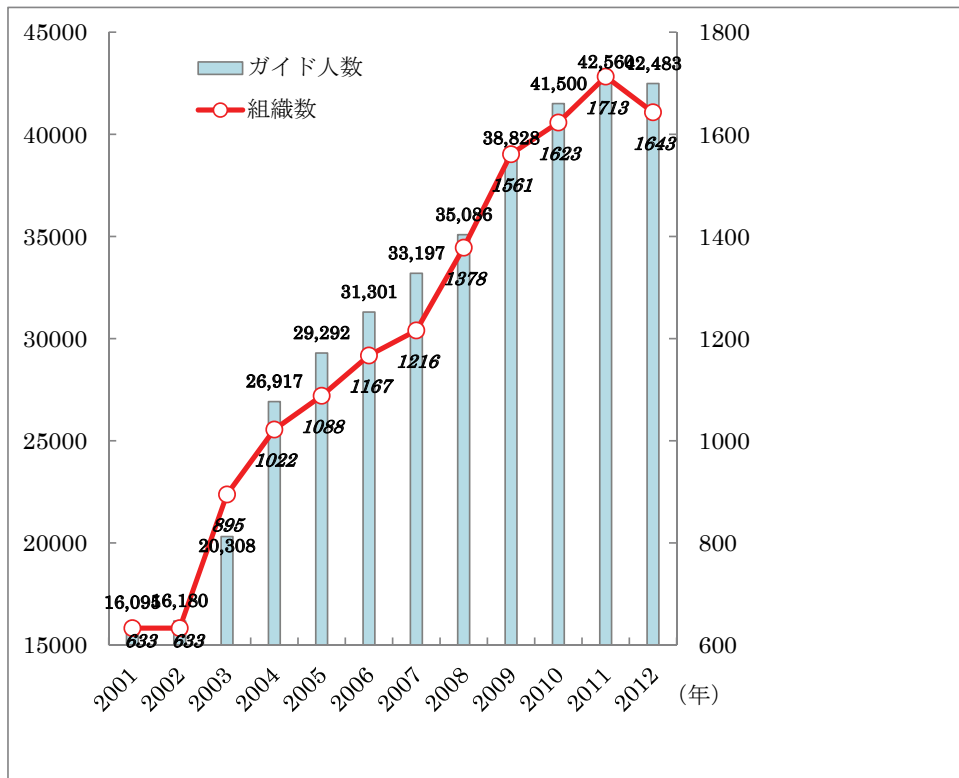
近年、諸外国と同様に我が国でも「ボランティア活動」への意識が高まりを見せつつある⁸⁾。これは観光分野でも例外ではなく、観光関連のボランティア活動へ参加する人々も増えつつある。観光関連のボランティア活動へ参加形態としては大きく分けて(1) 労力の提供と(2) 施設の提供との2タイプがある。(1)の労力の提供では、特にイベントなどで一時的に多くの労

8) 平成18年社会生活基本調査（総務省（2007, p. 63））によると、10歳以上の日本国民の中で、平成17年（2005年）10月から翌年18年（2006年）10月までの1年間に何らかの形でボランティア活動を行った人の割合は、26.2%である。

力を必要とする場合や、植物等の維持管理のような比較的手間のかかる作業において、ボランティア活動としての参加・協力が求められる場合が多く、(2)の施設の提供としては、トイレや宿泊所の提供などが挙げられる⁹⁾。

近年、増加傾向にある観光関連のボランティア活動の一つに、ボランティアとして「人に自慢できる豊かで楽しいまちづくりに寄与するという社会的な事業に自発的に参加する人」と定義され¹⁰⁾、観光客に対して自分達が暮らしている地域を案内する「観光ボランティアガイド」がある。観光ボランティアガイド組織の第1号と言われているものは、1949年に京都で設立された「京都学生観光連盟」である。1955年には岩手県で「平泉町観光ガイド事務所」が設立され、同年、京都府で「久美浜町郷土研究会」が設立された。その後、大分県の「九重の自然を守る会」、和歌山県の「粉河歩こう会」などが設立された。2012年現在、1,643あるボランティアガイド組織の凡そ90%が平成に入ってから設立されており、図1からも明かなように、人々の観光ボランティアガイドへの参加意識の高まりがうかがえる¹¹⁾。

図1 観光ボランティアガイドの組織数と人数の推移



出典：「観光ボランティアガイド組織の現況」（平成24年1月調査）、社団法人日本観光振興協会

また、ボランティア活動形態の分類方法として、無報酬で活動を行う「無償ボランティア」

9) 社団法人日本観光協会編（2008）、pp.680-681。

10) 社団法人日本観光協会編（1994）、pp.1-2。

11) 詳しくは「社団法人日本観光振興協会ホームページ」を参照されたい。

と実質的に低い報酬で活動を行う「有償ボランティア」がある。これについて社団法人日本観光振興協会（2012）によると、全国1364の観光ボランティアガイド組織への調査で、有償で観光ボランティアガイドを行っている組織が38.8%、無償で行っている組織が54.7%、無回答が6.5%となっている¹²⁾。

次に表1では、都道府県別に観光ボランティアガイドの協議会の有無、組織数、ガイド人数、性別人数、平均年齢について示されている。その中で観光ボランティアガイドの平均年齢について見てみると、いずれの都道府県に於いても観光ボランティアガイドは50代後半から60代の人々が中心であり、全国平均で62.7歳とシニア世代の人々を中心に構成されていることがわかる。これは、観光ボランティアガイドとして活動するためには、各団体或いは市町村で実施している5回から10回にわたる養成講座を受講し、修了することが望ましいとされ、一般に観光ボランティアガイドが、実際に活動する時間に加えて、観光ボランティアガイドとして活動するまでに費やす時間的余裕がある定年退職者などの人々を中心に構成されているからであると言えよう。

表1 ボランティアガイド都道府県別組織数

都道府県名	協議会の有無	組織数	ガイド人数	男性	女性	平均年齢
北海道	○	61	1,511	772	1,000	59
青森県	○	29	718	404	294	59.8
岩手県	○	35	669	342	286	60.9
宮城県		51	942	532	304	62.5
秋田県		43	884	550	307	63
山形県	○	76	1,710	1,071	580	62.5
福島県	○	22	820	415	358	63.5
茨城県	○	24	563	327	234	64.5
栃木県		28	706	365	329	63.7
群馬県	○	53	975	622	355	64.1
埼玉県		26	533	290	197	64.6
千葉県	○	37	759	423	290	61.9
東京都		23	1,628	490	668	64
神奈川県	○	26	1,297	812	423	64.7
新潟県	○	52	987	658	329	62.9
富山県		34	730	296	419	62.8
石川県	○	30	976	522	452	64.3
福井県	○	16	362	217	145	64.7
山梨県		21	513	225	115	63.6
長野県		48	1,237	690	465	64.7
岐阜県	○	38	993	644	334	66.2
静岡県	○	57	1,317	709	497	65.1
愛知県	○	62	2,712	1,166	1,422	63.4
三重県	○	39	917	551	366	66.5
滋賀県	○	36	750	425	291	65.6
京都府	○	33	1,239	660	499	59.1
大阪府		29	1,178	706	462	64.2
兵庫県	○	65	1,507	876	628	62.2
奈良県	○	38	1,590	958	632	61.7
和歌山県		14	285	159	126	61.7

12) ただし、ガイド料としてではなく、交通費、資料代等の実費のみを徴収する場合は無償としてカウントしている。

鳥取県		19	261	188	73	62.4
島根県		35	653	407	212	61.3
岡山県	○	33	744	415	327	65.6
広島県	○	30	654	318	298	63.4
山口県	○	27	647	356	281	66.2
徳島県	○	18	412	136	258	61
香川県		14	551	232	138	67.7
愛媛県		16	438	232	206	60.7
高知県		22	433	215	218	59.9
福岡県	○	31	947	494	441	62.1
佐賀県	○	23	532	233	299	59.4
長崎県	○	34	1,115	653	376	60.2
熊本県	○	51	915	544	335	63.8
大分県	○	55	771	447	308	60.5
宮崎県	○	20	417	230	187	61.8
鹿児島県	○	37	933	509	414	60.4
沖縄県		32	1,052	488	378	56.9
合計	31	1,643	42,483	22,974	17,556	62.7

出典：「観光ボランティアガイド組織の現況」（平成24年1月調査）、社団法人日本観光振興協会

ここで香取市の「観光ボランティアガイド」について触れると、先に述べたように香取市国際交流協会では外国人観光客向けに「通訳ガイドボランティア部会」を設置し、国内からの観光客に対しては、NPO 法人「小野川と佐原の町並みを考える会」による無料で佐原の町並みを案内する活動を行っている¹³⁾。小野川と佐原の町並みを考える会では、その名の通り香取市の中でも特に小野川沿いの重要伝統的建造物群保存地区を中心に観光ボランティアガイドを行っている。NPO 法人「小野川と佐原の町並みを考える会」では、現在20名弱のシニアの方のボランティアが観光ボランティアガイドとして観光客が佐原の滞在する時間などを考慮しながら佐原を効率よく楽しめるプランを作成し、詳細な解説のもとに佐原の街を案内している。佐原のモデル観光ルートとして、山車会館駐車場から始まり東薫酒造までの「150分見学フルコース」を紹介している¹⁴⁾。

4. おわりに

近年、増加傾向にあり、観光ボランティアガイドであるが、これまで見てきたように佐原の観光ボランティアガイドを含め、全国の観光ボランティアガイドはシニア世代の人々を中心に構成されている。このような状況の中で、今後は若い世代の観光ボランティアガイドを育成し、若者が若者の視点で観光客に対して自分たちの魅力あるまちを紹介する環境を構築することも必要であると言えよう。地域で若い世代の観光ボランティアガイドを育成することにより、これまで十分に活用されてこなかった「社会的ボランティア資源」を有効に活用できると同時に、若者が自分の住むまちをより深く知り、それを他の人に伝えることを通して学ぶ機会を得ることができる場ともなり得るであろう。

13) 地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究として、例えば、加藤・他（2003）がある。

14) このコースは、山車会館駐車場を出発し山車会館（30分）→正上（15分）→三菱館・交流館（10分）→伊能忠敬旧宅（10分）→樋橋（5分）→伊能忠敬記念館（30分）→小堀屋、福新（10分）→東薫酒造（30分）へ至るコースである。カッコ内は所用時間。

筆者はこれまで国際ボランティア活動についての考察を進めてきたが、今回の千葉県香取市佐原への視察を同行させて頂き、観光関連のボランティア活動について考える機会を得た。本稿では我が国に於ける観光ボランティアガイドの現状と佐原の観光ボランティアガイドについて簡単に触れるに留まったが、今後は、佐原の観光ボランティアガイドの動向について引き続き注目し、他の地域の観光ボランティアガイドについても考察を進めていきたい。

最後に、筆者が2012年度愛知大学経営総合科学研究所「観光とまちづくり」プロジェクト視察に参加する契機をお与え下さった愛知大学経営総合科学研究所所長である神頭広好愛知大学経営学部教授を初め、視察中にご指導いただいた諸先生方、並びに香取市の「観光とまちづくり」について御説明下さった、香取市役所経済環境部商工観光課賑わい推進班の方々には感謝申し上げます。

参考文献・資料

- 加藤麻理子、小野彰男、小野良平、熊谷洋一、(2003)、「地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究」、『ランドスケープ研究』、66(5)、日本造園学会、799-802頁。
- 香取市経済環境部商工観光課、(2012)、『観光まちづくり説明資料』。
- 国土交通省総合政策局、(2009)、『観光客の移動支援に資する情報提供マネジメントに関するヒント集―「まちめぐりナビプロジェクト」等の取組から得られたレッスン―』、国土交通省。
- 白井清兼、西村崇、山本淳子、伊藤興一、加藤浩徳、城山英明、(2009)、「旧佐原市地区におけるまちづくり型観光政策の形成プロセスとその成立要因に関する分析」、『社会技術研究論文集』、Vol.6、社会技術研究会、93-106頁。
- 社団法人日本観光協会編、(1994)、『観光ボランティアガイド：現状と展望』、社団法人日本観光協会。
- 社団法人日本観光協会編、(2008)、『観光実務ハンドブック』、丸善。
- 社団法人日本観光振興協会、(2012)、「観光ボランティアガイド組織の現況」、社団法人日本観光振興協会。
- 総務省統計局、(2007)、「国民の生活時間・生活行動（解説編）」、『平成18年社会生活基本調査』、第7巻、総務省。
- 香取市ウェブサイト <http://www.city.katori.lg.jp/>
- 佐原まちぐるみ博物館ホームページ <http://m-kaze.com/gurumi/>
- 社団法人日本観光振興協会ホームページ <http://www.nihon-kankou.or.jp/home/index.html>